

一声社 TEL03-3812-0281 /

FAX03-3812-0537

閑話休題—お好み焼き屋で爆発

あなたと奈良大和路—大学時代、ある休日のお昼過ぎの事でございます。行きつけのお好み焼き屋に現れたヨネやん。

ここのおばちゃんは、お金のないヨネやんにこっそり“おでん” やゆで卵をくれる優しい人。

「米山くん、いらっしゃい！ 今日は何にする？ いつもの豚玉か？」

「今日は、バイト代が入ったから、奮発するわあ。豚玉のモダンや！」

「そうか、バイト代が入ったんか～、よかったなあ～。ほな、すぐ用意するから、ガス点けといてえ～」

この店は、各テーブル備え付けの鉄板で自分で焼く。もちろん、お箸も小皿も使わない。お好み焼きを箸で食うたりなんぞしたら、白い目で見られるっちゅうもんです。コテで食べるんです！

ついでに言えば、この頃の関西のお好み焼き屋では、鯉節も青のりもみんな容器に指を突っ込んで、手づかみで取った。

「不特定多数が手を入れるなんて～」とか騒ぐ人は皆無だったし、それで病気になった人も知り合いにはいない。さすがにたこ焼きを手づかみで食っている奴は見た事ないけど。

「火い点いたかあ～？」

「まだあ。今から点けるわあ」

テーブル下のガス点火つまみを、カチッとひねる。「あれ？ 点かへん」。もう一度、カチッ。「まだ、点かへん」。3 度目のカチッ。「おかしいなあ。どないなってんねん」。ヨネやんは、火の様子を見るためにテーブ

ルの下に頭を突っ込みます。「よう見とかんとアカンわ」。

……これでもういっぺん、つまみをこうやってひねるやろお～……カチッ。

ポオン！

「何事や～！」。おばちゃんの悲鳴が遠くに聞こえます。何事か、自分でもようわかりません。ただ、顔がひりひりする。焦げ臭い。

マンガで爆発が起こると、髪の毛がちりちりになって、顔が真っ黒になる——それが現実にかかることを、この日ヨネやんは、身を持って体験したのです。前髪・眉毛はちりちり。鼻の穴の中が痛く、鼻毛もチリチリ。

「そうか、鼻の穴の中にガスが入ってたんやなあ。それで、鼻の中も爆発するんやわあ」—緊急事態にも関わらず、妙な所に感心するヨネやん。

顔は、真夏に無理して泳ぎ過ぎたような、日焼けのちょっとひどい感じの痛み。「ひりひりする～」。

「それくらいで済んで良かったがなあ～。もっとひどい爆発になっててみ。おばちゃん、店締めなアカンでえ」

「ごめんなさい。」ただひたすら謝り、無事とちりちり髪の毛のお見舞いに、いつもより多いおでんをサービスしてもらったヨネやん。お好み焼き屋で、この頃はまだあった前髪だけにパーマをかけたヨネやん。大学4回生の奈良大和路。

好評新刊紙とえんぴつでおはなし

近刊予告“紙とえんぴつでおはなし”

小道具セット 本体 1,100 円